

# にらの栽植密度について

## 1 試験のねらい

にらの収量・品質は畝間、株間並びに株当たり茎数によって影響される。そこで、栽植密度に応じた適正な茎数を明らかにするため、株当たり面積と茎数の相違が冬にらの収量、品質に及ぼす影響を検討した。

## 2 試験方法

品種はグリーンベルトを用い、株当たり面積を400、600、800、1,000及び1,200  $cm^2$ の5処理とし、それぞれに1、4、7、10、13及び16本植えを組み合わせた。規模は1区1~2  $m^2$ 、2区制で、57年3月25日には種し、7月4日に定植した。施肥量は3要素とも成分量で4 kg/a、保温は58年1月7日に行い、4回収穫した。

## 3 試験結果及び考察

定植後は順調な生育を示したが、9月下旬頃から株当たり400  $cm^2$ の10本植え及び600  $cm^2$ の13本植え以上で倒伏が認められ、特に400  $cm^2$ の13及び17本植えで激しかった。

茎数、株当たり収量及び葉幅は表-1のとおり、株当たり面積の増加とともに優れた。ただし、a当たり収量は単位面積当たりの株数が最も多い400  $cm^2$ 、次いで600  $cm^2$ が多収となり、800~1,200  $cm^2$ 間では収量差が認められなかった。植付本数と株当たり面積の関係(表-2)は、収量的には400  $cm^2$ が4本、600及び800  $cm^2$ が7~10本植えまでは増収効果が認められたが、それ以上の植付本数では効果はほとんどなく、葉幅も狭くなる傾向を示した。しかし、1,000及び1,200  $cm^2$ では植付本数の増加とともに増収し、1,200  $cm^2$ では葉幅の低下も認められず、これらのことは株当たり面積(栽植密度)に応じた適正な植付本数を示唆しているものと思われる。

収穫時の株当たり茎数とa当たり収量の推移を図-1に示したが、各面積とも茎数が一定本数を越えると収量は停滞、または低下する傾向がみられ、特に400  $cm^2$ で著しかった。面積別に最高に達したと思われる株当たり茎数は400  $cm^2$ がおよそ24本、600  $cm^2$ 35本、800  $cm^2$ 47本、1,000  $cm^2$ 58本、1,200  $cm^2$ は70本程度と考えられ、茎数は面積とともに増加した。なお、各処理(面積)とも収量が最高を示した時点の茎数を1  $m^2$ 当たりには換算すると580~600本の間であった。

## 4 成果の要約

栽植密度(株当たり面積)と茎数が冬にらの収量、品質に及ぼす影響について検討した結果、収量、品質は栽植密度によって大きく異なり、収量重視の栽培では株当たり400  $cm^2$ 程度の密植に、また、品質を重視した場合には株当たり1,000~1,200  $cm^2$ の疎植が適すると思われる。ただし、収穫時の茎数が1  $m^2$ 当たり600本を越えると、栽植密度の広狭に関係なく収量、品質の

向上は認められなくなるので、植付本数には注意する必要がある。

(担当者 野菜部長 修)

表-1 株当たり面積と収量，葉幅の関係

株当たり 面積 $cm^2$	収穫時 の茎数	収 量		葉 幅 mm	注 a 当たり収量は、間口 4.5 m のパイプハウスに 4 0 0 $cm^2$ が 1 6 畝 (1,760 株)，以下 1 3 畝 (1,170 株)，1 1 畝 (858 株)，1 0 畝 (700 株)，9 畝 (576 株)として算出。
		株当たり g	a 当たり kg		
400	27	271	477	7.6	
600	31	369	432	7.9	
800	36	458	393	8.2	
1,000	42	569	398	8.3	
1,200	47	673	388	8.6	

表-2 植付本数及び面積が収量，葉幅に及ぼす影響 (株当たり)

植付 本数	400 $cm^2$		600 $cm^2$		800 $cm^2$		1,000 $cm^2$		1,200 $cm^2$	
	収量 g	葉幅 mm	収量 g	葉幅 mm	収量 g	葉幅 mm	収量 g	葉幅 mm	収量 g	葉幅 mm
1	194	8.3	230	7.9	257	8.0	292	7.7	425	8.1
4	289	8.3	371	8.1	454	8.4	574	8.6	655	8.7
7	286	7.6	401	8.2	497	8.6	604	8.7	696	8.7
10	290	7.5	401	7.9	510	8.5	627	8.3	731	8.7
13	293	7.4	403	7.8	512	8.0	654	8.5	756	8.6
16	265	6.8	403	7.6	513	7.9	675	8.2	776	8.6

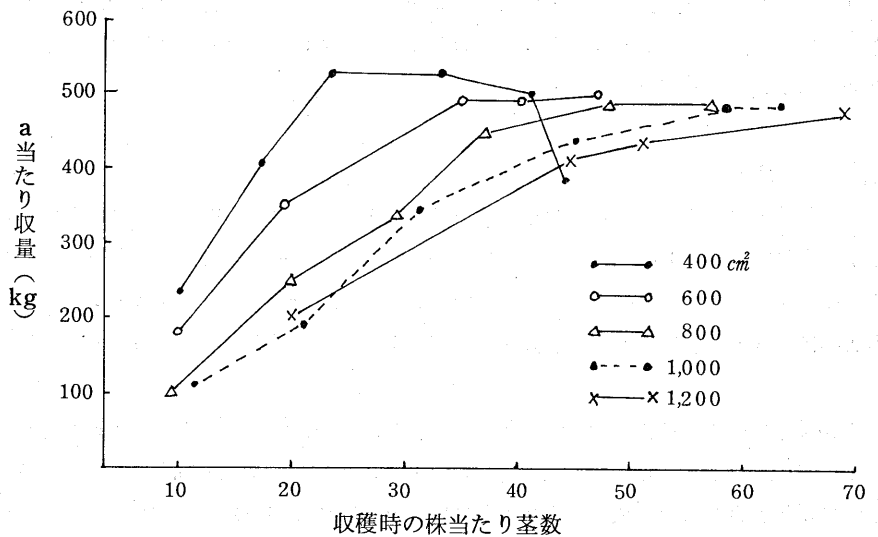


図-1 収穫時の茎数と収量の推移